

9 新しい教材を利用した学生の理解度向上のための取り組み — ポンティック基底面形態 —

五十嵐雅子, 高橋圭太

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : ポンティック基底面形態, 平面教材, 立体教材

はじめに

ポンティック基底面形態は、歯科技工士国家試験の出題率が比較的高い領域であるので、学生の理解度を十分に高める必要がある。しかし、歯冠修復実習において、全てのポンティック形態を製作する時間は確保できないのが現状である。そこで、従来は写真や図など平面的な教材を使用してきたが、新たな試みとして、各種ポンティック基底面形態と自浄性の関係を立体的に目視できる拡大模型教材を製作した。ここでは、新しい教材が学生の理解を深めることができたか調査したので報告する。

対象および方法

対象：歯科技工士学科1年生36人・2年生28人

調査時期：平成28年8月30日～9月12日

方法：学生64名を対象に、各種ポンティック基底面形態（離底型、船底型、偏側型、リッジラップ型、鞍状型）について、以下の各項目について、学生の理解度をアンケート方式で調査した。

1) 基底面形態のイメージのしやすさ

2) 教材による理解度

(1) 従来からの平面教材：説明文、図

学生が授業で使用した全国歯科技工士教育協議会編集「新歯科技工士教本」

(2) 新規製作した立体教材：見本模型、拡大模型

・見本模型：1年生の実習で使用している基礎模型を用いた、支台装置が下顎右側第二小臼歯と第二大臼歯、ポンティックが下顎右側第一大臼歯の金銀パラジウム合金製ブリッジ

・拡大模型：ポンティック（常温重合レジン製）のみが可撤できる下顎臼歯部（台を含む高さ約60mm 長さ約130mm 幅約60mm）

3) 3方向からみた基底面形態の理解度

（舌側方向、隣接面方向、基底部方向）

4) 基底部の顎堤粘膜に接する形と広さ

結果および考察

イメージしにくいポンティック基底面形態は、64人の複数回答で、1位 偏側型（41人）、2位 リッジラップ型（37人）、3位 鞍状型（21人）、4位 船底型（14人）、5位 離底型（2人）であった。理解しやすい離底型を除く4種のポンティック基底面形態について、教材別にみた基底面形態の理解度は1、2年生共に、いずれの基底面形態において、「説明文」の理解度は最も低く、立体教材、特に「拡大模型」の理解度は最も高かった。

また、3方向からみた基底面形態の教材別の理解度は、1、2年生共に「説明文」が最も低く、平面教材に比べ、立体教材は高い傾向にあった。「図」については、舌側面や隣接面から見た形態は理解しやすいが、基底面から見た形態はイメージしにくい。理解度の比較的高かった見本模型は、「図」に比べ、支台装置がありポンティックを隣接面から基底面形態を観察することが難しい。また、学生の回答数からみると、基底面の顎堤粘膜に接する形と広さが理解しにくい傾向にある。拡大模型はポンティックを可撤でき、隣接面からみた形態や基底部からみた形態が見やすく、基底部の顎堤粘膜に接する範囲に色付けしているため見本模型より理解度が向上したと考えられる。見本模型も基底部の粘膜に接する範囲を色付けし明瞭化すれば、さらに理解度が向上すると思われる。

謝 辞

本研究は、学長裁量経費により遂行されましたことを付記し、感謝申し上げます。